

# 地域おこし研究員・松浦の活動記

最終回

3月末で卒業

みなさまありがとうございました

## 1. 今年度の取り組み

今年度、特に力を入れて取り組んだのは、スキマ時間で稼ぎたい働き手と繁忙期の人手不足を課題とする事業者のマッチングを目指す「スキマ時間プロジェクト」です。これまでに、10数社の農家をはじめとする事業者のみなさまに受け入れていただき、40人以上の働き手のみなさま



▶ 第1回マッチング交流会の様子

とのマッチングを実現することができました。

働き手と事業者双方のリアルな声をお聞きする中で、顔の見える安心できる関係性をいかにつくるか、という点がとても重要だということが分かり、マッチング交流会という双方が直接会って働き方について相談する場を設け、さらにLINEを活用して柔軟に連絡が取れる環境を作っています。

## 2. 関係人口ってなんだろう

近年、地域づくりや地方創生に関わる取り組みでは「関係人口」という概念が浸透しつつあります。日本全体の人口が減少していく中で、地方・地域で限られた移住者を奪いあうのではなく、移住せずとも地域に多様に関わる人たちを地域の仲間として認め、ともに活動することで、人口が減少する中でも持続的な地域づくりを進めようという考え方です。

例えば、この3年間私が取り組んできたことは、いずれも関係人口の

受け皿をつくるものでした。

初年度から取り組んでいた、地域外の大学生が地域の一員として活動することをサポートする「だいせん週末住人プロジェクト」では、地域自主組織のみなさんをはじめ、様々な方との交流をしながらイベントづくりなどに関わらせていただくプログラムをつくりました。メンバーの一部は、今後も自身の活動を大山町で取り組もうとしています。

「スキマ時間プロジェクト」では、農業の仕事にこれまで触れることの少なかった働き手と農家さんなど、業種職種を超えた関係づくりをサポートしてきました。関係人口というとすぐに県外、特に都会の人をイメージしがちですが、地域内でも新しい関係づくりを進めることで、まだまだ地域の産業や地域づくりの活動が活発になる可能性があることを感じます。

## 3. これからの展望

3年間の地域おこし研究員の活動は卒業となります。昨年末には会社を設立しました。鳥取県出身者や学生時代に鳥取県で過ごした経験がある全国のZ世代（95年生まれ以降）のコミュニティをつくりながら、そのメンバーが複・副業で鳥取県の事

業者や地域のプロジェクトに関わる仕組みをつくっていきます。

特に、情報発信や新商品開発などのプロジェクトは、SNSが生活の一部になっていたり、SDGsなど社会的関心が高かったりするZ世代の視点を活かすことで、未来につながるより良いプロジェクトになると感じています。さらに、自治体・民間企業・地域づくり組織などと協働してこうした取り組みを進めていきたいと思えます。



▶ 会社の仲間たちと打合せ

企画課

☎ 0859-54-5202